

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1805~1877年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

漢学者



ゆかりのある場所など:

たかはしきょうとしりょうかん

・高梁市郷土資料館

ほうこく さと

・方谷の里ふれあいセンター

ほうこくばし やまだほうこくきねんかん

・方谷橋・山田方谷記念館

びつちゅうまつやまじょう

・備中松山城

れきしびじゅうかん ぶんかこうりゅうかん

・歴史美術館(文化交流館)

みしまちゅうしゅう ふくにししげこ

・三島中洲・福西志計子

いたくらかつきよ まるかわしゅういん

・板倉勝静・丸川松隠



やま だ ほう こく
山田 方谷

新 高
見 梁
市 市

総早倉矢井浅里笠
社島敷掛原口庄岡
市町市町市町市



やま だ ほうこく ぶん か ねん いま たかはし し なか い ちやうにしがた のうぎょう な たねあぶら せいそう ほんばい
山田方谷は、文化2(1805)年、今の高梁市中井町西方の農業と菜種油の製造と販売を
おこな いえ う さい にい み はん ほんこう きやうじゅ まるかわしゅういん がくもん まな
行っている家に生まれました。5才で新見藩の藩校で教授をしていた丸川松隠に学問を学びま
した。

さい ねんかん え ど べんきやう さい にい み はん もど ほうこく じしん さい とき
29才からの3年間江戸で勉強しました。32才で新見藩に戻り、方谷自身も21才の時に
まな びつちゅうまつやまはん がくもんじょ ゆうしゅうかん がくとう こうちやう がくとう じ だい てんぼう
学んだ備中松山藩の学問所「有終館」の学頭(校長)となりました。また、学頭時代の天保9(18
ねん しじゆく ぎやうろくしゃ めい じ さんだいぶんそう ひとり かぞ み しまちゅうしゅう のち たかはし
38)年に私塾「牛麓舎」をつくり、明治の三大文宗の一人に数えられる三島中洲や、後に高梁の
ち じょ し きやういく ふきゆう つと こと ふくにし し げ こ ち まな
地で女子教育の普及に努める事となる福西志計子はこの地で学びました。

さい びつちゅうまつやまはんしゅう いたくらかつきよ はん ざいせい かん り やく ほうこく
45才のとき、備中松山藩主の板倉勝静から藩の財政を管理する役をまかされました。方谷
ねんかん しゃつぎん へんさい けいかく た まんりやう いま かね やく おくえん しゃつぎん かえ
は、7年間で借金を返済する計画を立て、10万両(今のお金で約300億円)の借金を返すと、
まんりやう た はん ざいせい た なお おお こうけん
さらに10万両を貯めて、藩の財政立て直しに大きく貢献をしました。

めい じ い しん ご きやうまつやまはん たかはしはん さいこう あいだ ほうこく は し どうてき
明治維新の後、旧松山藩は高梁藩として再興されましたが、この間に方谷が果たした指導的
やくわり こうけん おお
役割とその貢献は大きなものでした。